

向陽

〒780-8014 高知市塩屋崎町1丁目1-10 TEL (088) 833-4394 FAX (088) 833-7373

http://www.tosaobog.com

初代三根校長への 熱き敬愛に触れて

中城 正堯 (30回生)



三根校長時代の土佐中学校舎
〔三根校長追悼誌〕



〔三根校長の長男・徳一は、芸名ディック・ミネで知られる流行歌手で、第二次世界大戦前後の歌謡界で大活躍だった。モダンな歌とタンディな容姿で実力・人気を併せ持ち、ジャズ・歌謡曲のトップ歌手となった。しかし、三根校長が健在のころは、息子が流行歌手というのははばかりな雰囲気があったようで、戦時色の濃くなった昭和八年刊行の『三根先生追悼誌』には、息子のことはほとんど出てこない。〕

〔三根圓次郎校長とチャイコフスキー〕(左より)



昭和30年春から東京で学生生活を始めると、早速新聞部の東京支局ならびに同窓会支部のお手伝いを仰せつかり、取材や寄付集めに先輩たちを訪ね歩いた。そこで驚いたのは、初代校長・三根圓次郎先生への敬愛の強さであり、母校愛であった。当時、東京支部の役員は、片岡義信(1回生・国鉄)や北岡龍海(5回生・中央気象台)で、職場でも要職にあつて多忙を極めていたが、「土佐中」の一言で時間を取つていただけだ。

そんな中、昭和33年4月に「大嶋校長逝去」の電報が届き、近藤久寿治(6回生・同学社)の呼びかけで同窓会支部幹部が集合、葬儀への対応に続いて次期校長選定が話題となった。そして、全員一致で当時の曾我部清澄同窓会長(1回生・高知大学教授)を推薦することが決まった。卒業生には、同窓生校長誕生への強いこだわりがあった。

三根校長から直接教えを受けた先輩は、厳しい指導のなかにも温かい眼差しを忘れず、生徒一人ひとりの個性と自主性を尊重し、音楽・美術など教養も重視する校長の教育姿勢に、強い敬愛を抱き続けていたのだ。昭和18年刊『三根先生追悼誌』には、失明しながらも大学卒業後の就職先から思想問題まで心配いただいたことへの感謝があふれている。時代を先取りしたこの教育理念の原点はどこか、たどり着いたのは帝国大学文科大(現東大)哲学科時代の主任教授ケーベル博士であった。夏目漱石や寺田寅彦にも慕われた博士の人物像と、三根校長の音楽をめぐる教え子との交流は、拙著『三根圓次郎校長とチャイコフスキー』(平井康三郎、ディック・ミネ、ケーベル博士をめぐつて)をお読みいただきたい。

*『三根圓次郎校長とチャイコフスキー』(向陽ブレスクラブ 2017年6月発行)は、土佐中高図書館・高知県立図書館・高知市民図書館で所蔵。インターネットでは、「向陽ブレスクラブ」のホームページ(<http://www.tosakpc.ne.jp>) 2017年3月25日に全文を掲載している。

みなさま

よろしく

お願いいたします

第九代校長 小村 彰(49回生)



百年のあゆみ、

さらに

やぐら作業の槌音が響く季節になってきました。就任以来、早五ヶ月が過ぎました。ここまで、おぼつかない足取りではありますが、生徒・保護者・教職員、そして同窓の皆さまのご協力を得て、なんとか歩みを進めてまいりました。慣れない業務が続く中で、校長の仕事の大部分は「人と会う」ことであると実感しています。さまざまな分野の方とお目にかかり、会話を交わす度に、本校の過去・現在・未来について改めて深く考えさせています。

教育方針 これまでもこれからも

校長就任に当たって、生徒・教員あわせて四五年の本校生活の中で、すっかり自分の中に染みついてしまった「土佐」を改めて見つめ直すために、建学当初を振り返るべく、新聞部の卒業生でつくる「向陽プレスクラブ」制作の「土佐中學を創った人々」に学ばせていただきました。その中に、初代校長三根圓次郎先生の時代に掲げられた五つの教育方針が記載されています。次の通りです。

- 一、個人指導に重きをおき、教授能率の増進を図ること
- 二、天賦の能力を發揮し、自発的修養に努めさせること
- 三、堅忍剛毅の性格、堅実な思想を養成すること
- 四、責任を重んじ好んで労に就く習慣を養うこと
- 五、運動を重んじ、養護上の注意を忘れず、以て体位の向上を計ること

これが、四代曾我部校長が「学問を重んじ、礼節を尊び、スポーツを愛する」とまとめられました。そしてこうした活動を通して「人材を育成すること」が本校の教育目標であることは揺るぎません。ただこの創立当初の教育方針を読んで、改めて私の血となり肉となつていゝもの、土佐の教育の中で、ずっと大事にされてきた、教員の指導の基本となつてきたことが見いだせるように思いました。それを現代風にわかりやすく表現すると、「個性と自発性を重んじ、他者のために労を惜しまず、元気に高いレベルを目指して努力することのできる」人間になるように指導するということです。それは、言葉には表されなくとも、「校風」として、受け継がれているものであると感じています。そして、その指導が結実する、あるいは象徴となるものが、運動会なのかも知れません。生徒が創意工夫をこらし、作業に役割に汗を流し、元気に力一杯競技する。「土佐」が体現されているからこそ、この時期にこれだけ学校全体が盛り上がるのでしょうか。そして、こうした「協働」の場があるからこ

そ、生徒間の絆が強まり、永く続いていくものになるのではないでしょうか。

教育改革 少しずつ一歩ずつ

そんな土佐の伝統を大切にしつつ、さらなる発展を目指して「百年人材プロジェクト」として、四つの目標を掲げて実践を進めています。それは、一、高知県の未来を担う、二、国際的に活躍する、三、高度な学術研究に貢献する、四、スポーツや芸術で才能を発揮する人材です。こうした人材の育成を目指しつつ、当面学校として対処すべき喫緊の課題が二つあります。ひとつは、大学入試や学習指導要領の変化への対応。もうひとつは、創立百周年記念事業の立案・実施です。

(3) 現在進められている教育改革は、大づかみに言えば、グローバル化、ICT化に対応しつつ、主体的に思考し、自己表現できる能力の育成という方向性が強調されています。とくに「主体的な」思考は、「アクティブラーニング」などということばで大きく取り上げられています。が、本校が長年掲げてきた「自学自

習」「自発性」そのものです。グローバル化、ICT化についても地道に進めてきたところですが、一層の発展のために新世紀募金でいただいた資金を活用して、新しい取組みも始めています。中でも、教職員および生徒の海外研修制度は、これを目的に使用してほしいという篤志家の方の1億円の寄付をもとに、新しい制度が整い、この八月から海外研修が始まっています。厳しい少子化の中で、この教育改革にきちんと対応していくことは、これからの本校にとってまさに存亡がかかる重要課題だと考えています。校内で議論を重ね、着実に実践をすすめてまいります。

百周年 土佐らしく前向きに

もう一つの大きな課題が創立百周年記念事業です。三年後、二〇二〇年の百周年を大きな節目と考え、その記念事業を成功させることに力を注いでいくことにしています。その体制づくりのために、今年度から教頭を3人とし、通常の業務をより効率的に分担するとともに、百周年記念事業の三つの柱をそれぞれ分担し

てもらうことにしました。三つの柱

とは、一、百年史の編纂刊行、二、記念企画の立案実施、三、記念式典の実施です。百年史は岡松宏明教頭が主担当として、大学の教育史研究者グループに依託して、執筆を進めています。今後、同窓会や校内委員にも協力をもとめ、学術的にも高いレベルの学校史の制作を目指しています。百年記念企画は、松村誠教頭を中心に、対外試合や記念演奏会の実施や本校の歴史を物語る校内展示の企画などを検討しています。さらに記念式典は武市暢久教頭が担当し、二〇二〇年の開校記念日の前後におこなう記念講演会も含めた記念式典を計画していきます。なお、百年を記念しての施設整備も実施したいと考えていますが、建築需要の状況等も考え、二〇二〇年以後に着手する方向で検討しています。

この事業を土佐にふさわしいものにするために、また何よりも土佐が土佐であり続けるために、同窓生の皆さまのご協力を欠くことはできません。どうか、今後とも母校に温かいご支援をいただけますよう、心からお願ひ申し上げます。

(平成29年9月20日記)



松村 誠教頭 (53 回生)



武市 暢久教頭 (53 回生)



岡松 宏明教頭 (51 回生)

同窓会のご支援があつたればこそ

第八代校長 山本 芳夫 (40回生)

去る三月、同窓会と振興会(土佐校の保護者会の呼称)とで共催していただいた新旧校長の歓送迎会の席で次のような挨拶を申し上げました。「今振り返ればあつという間の六年でしたが、数々の出来事や思い出が胸を過ります。この間、母校発展の為に如何ほどの貢献が出来たかを考えると正直慚愧たる思いもありますが、半面、伝統と誇りが灯った松明を豊かな経験と広い識見を備えた小村新校長に引き継げることに安堵の気持ちを禁じえません。これも偏に、多くの



新旧校長歓送迎会にて

皆様のご厚情とお支えがあつたればこそと、深く感謝申し上げます」

早いもので、あれから半年余りが経過いたしました。そして、今も学校のHPで見ることが習慣となつておりますが、掲載されている運動会を始めとした数々の学校行事の様子や各種大会での土佐中高生の活躍ぶりなどのニュースをチェックしながら、新体制の順調さを嬉しく感じるとともに、今後も「より高いレベルでの文武両道」が並進されることを期待して止みません。



平成28年度卒業式にて

とところで、学校のHPからは同窓会のHPへもリンク出来ませんが、それを見るにつけ、同窓会活動の幅広さを再認識させられます。『土佐校の同窓会は熱い』と各方面で良く言われますが、それは決して過大評価ではありません。ご存知の通り、土佐校の同窓会活動は非常に活発で、本部(高知)での総会・ホームカミングデーを始めとして各支部



クラスマッチにて

七支部)でも定期総会や各種情報交換会が頻繁に開催されこれらの場を通して、諸先輩が後輩を何くれと面倒を見てくれるホットなネットワークが各地で形成されております。また、高一の修学旅行の時には東京でのコース別研修先で関東支部の先輩にお世話になるなど現役生徒への支援もいただいておりますし、募金運動ではいつも主導的に協力下さるなど学校にとって何よりも力強い存在であります。

私も在任中は、本部はじめ各支部の総会や懇親会には殆んど出席させて頂きまいしたが、いずれの場所でも細やかなご厚誼を賜りました。また折に触れ温かい励ましのお手紙もいただきました。このような多くの皆さんからのご高配は民間企業出身で未知の教育界に飛び込んだ者にとっては心の拠り所でした。正に、

「同窓会のご支援があつたればこそ」の思いであります。本当に有難うございました。改めて感謝申し上げます。そして、彼の甲子園の地での大同窓会にもう一度参加出来ることを切に願っております。

さて、前記の歓送迎会で退任後の生活にも触れ、「これからは、第二の故郷となつた東京多摩の地に帰り、健康に留意しながら平穏な日々を送りたいと思っております」と申し上げました。そして今は、重責から離れたことに加え、単身赴任生活が解消されたこともあり、安堵感と解放感を実感しながらの日々を過ごしておりますが、その一方で暇を持て余し気味であることもまた現実であります。そんな中で、ウオーキングをペースとしつつ、校長時代は封印していたゴルフを再開するなど「昔取った杵柄」を徐々に復活させながら、ルーティーン確立への模索を続けております。

結びに、同窓生各位のご健勝と母校の創立百周年に向けての更なる発展を心から祈念し筆を擱きます。(九月三十日記)



運動会でリム回しに挑戦!

● 合格の状況 ●

国立大学	現	過	計	進学
北海道大	2	1	3	3
東北大	1		1	1
茨城大	1		1	1
筑波大	2		2	2
宇都宮大		1	1	1
埼玉大	1		1	1
千葉大	3	3	3	3
東京大	2	2	2	2
東京外国語大	1	1	1	1
東京学芸大	1	1	1	1
お茶の水女子大	1	1	1	1
電気通信大	1	1	1	1
東京海洋大	2	2	2	2
横浜国立大	1	1	2	2
富山大	1	1	1	1
信州大	1	1	1	1
岐阜大	1	1	1	1
静岡大	1	1	1	1
名古屋大	1	2	3	3
名古屋工業大		1	1	1
京都大	2	5	7	7
京都教育大	1		1	1
大阪大	13	3	16	16
大阪教育大	1		1	1
兵庫教育大	1	1	1	1
神戸大	6	4	10	8
奈良女子大	1	1	1	1
和歌山大	1	1	1	1
鳥取大	1	1	1	1
島根大	1	1	1	1
岡山大	14	5	19	19
広島大	2	2	2	2
山口大	1	2	3	1
徳島大	6	2	8	6
香川大	3	3	6	6
愛媛大	1	2	3	3
高知大	22	11	33	32
九州大	1	2	3	3
九州工業大	1	1	1	1
宮崎大	1	1	1	1
琉球大	1	1	1	1
計	88	62	150	139
昨年	102	59	161	141

私立大学	現	過	計	進学
酪農学園大		3	3	1
自治医科大	1	1	2	2
獨協医科大		1	1	1
明海大		1	1	1
文教大	1	1	1	1
千葉工業大	1	1	1	1
帝京平成大		1	1	1
青山学院大	3	1	4	1
学習院大	1	1	1	1
北里大	2	4	6	2
慶應義塾大	6	7	13	8
國學院大	2	2	2	1
国際基督教大	2	2	2	2
国士館大	1	1	2	1
芝浦工業大	1	1	1	1
順天堂大	1	1	1	1
上智大	1	1	1	1
成蹊大	1	1	1	1
創価大	1	1	1	1
拓殖大	1	2	3	1
玉川大	1	1	1	1
中央大	5	11	16	3
津田塾大	4	1	5	1
帝京大	1	1	1	1
東海大	3	3	3	3
東京医科大	1	1	1	1
東京経済大	1	1	1	1
東京農業大	2	2	2	2
東京理科大	1	8	9	9
東洋大	1	1	1	1
日本大	2	3	5	3
日本獣生命科学大	2	2	2	2
日本女子大	3		3	3
法政大	5	2	7	2
明治大	6	13	19	2
立教大	2	6	8	2
早稲田大	7	9	16	7
麻布大	1	1	2	1
神奈川大	1	1	1	1
神奈川歯科大	1	1	1	1
金沢工業大	2	2	2	2
福井工業大	1	1	1	1
愛知医科大	1	1	1	1
名城大	1	1	1	1
名古屋学芸大	1	1	1	1
京都産業大	2	2	4	2
京都女子大	3	3	3	1
京都薬科大	4	4	2	2
同志社大	20	13	33	4
同志社女子大	1	1	1	1
立命館大	27	23	50	6
龍谷大	5	2	7	2
京都造形芸術大	1	1	2	1
大阪医科大		4	4	1
大阪芸術大	1	1	1	1
大阪薬科大	2	3	5	2
追手門学院大	1	1	1	1

私立大学	現	過	計	進学
関西大	11	9	20	3
関西医科大		1	1	1
関西外国語大	2	2	2	1
近畿大	11	13	24	2
摂南大		6	6	6
関西学院大	19	3	22	6
甲南大	3	1	4	4
神戸学院大	8	3	11	2
神戸女学院大	1	1	1	1
神戸薬科大	1	3	4	1
兵庫医科大	1	1	1	1
岡山理科大	3		3	1
川崎医科大	2	2	2	2
吉備国際大	1	1	1	1
川崎医療福祉大	1	2	3	2
広島修道大	1	1	1	1
広島国際大		1	1	1
日本赤十字広島看護大		1	1	1
徳島文理大	1	1	2	1
四国学院大	1	1	1	1
松山大	7	2	9	2
久留米大		2	2	1
福岡大		2	2	2
計	201	196	397	99
昨年	263	282	545	127

公立大学	現	過	計	進学
国際教養大		1	1	1
高崎経済大		1	1	1
首都大学東京		1	1	1
金沢美術工芸大	1	1	1	1
都留文科大	1	1	1	1
岐阜薬科大		1	1	1
静岡県立大		3	3	2
名古屋市立大	1	1	1	1
大阪市立大	3	1	4	4
大阪府立大	2	2	2	2
兵庫県立大	2	1	3	2
奈良県立医科大	1	1	1	1
奈良県立大	1	1	1	1
県立広島大	1	1	2	1
高知県立大	3	3	2	2
高知工科大	1	1	2	2
九州歯科大		3	3	3
福岡女子大	1	1	1	1
計	15	17	32	25
昨年	16	13	29	19

準大学・その他	現	過	計	進学
就職	1		1	1
専門学校・他	5	1	6	4
防衛医科大学校		2	2	1
水産大学校	1		1	1

平成29年度入試総括

進路部長 藤岡 優太 (58 回生)



◆はじめに◆
早いもので、現在の仕事に就いて3年目となります。忙しい中でも前向きに心に余裕を持つことも思うのですが、高大接続改革等やらなければならぬことが次から次と押し寄せてきており、日々追いつておられない。進路部にいる周りの先生方をみても同様です。先生だけではなく、生徒たちもあれこれやらなければならぬことが多く大変そうです。学校全体が年々忙しくなっているのを感じます。

◆入試結果◆

さて、今年度の入試結果を報告します。昨年に引き続き、国立公立医学部医学科については合格者36名、現役16名、昨年は38名、現役14名と好成绩をあげることができました。現役16名は77回生以来の平成最多です。京都1大(現役1)、岡山1大4(現役1)をはじめ、千葉大2名、名古屋大、神戸大、広島大と難関医学部の合格者が多かったことも今年の特徴です。また、難関国立大についても、大阪大16名合格(現役13名)を筆頭に、難関10大学の合格者45名(昨年41名)と立派な成績を修めることができました。ただ、東京大については合格者が2名、現役0名と大変厳しい結果となりました。この結果については大変重く受け止めています。また、定員厳格化に伴う合格者の絞り込みによる難化の影響もありますが、私立大学の合格数の減少も気になります。この3カ年の現役合格数307→263→207です。

◆今後に向けて◆
今春の入試の結果を改めてみながら、「自分のときはどうだったろう」と思い、58回生の卒業時の進学の手引を見てみました。35年前という大昔、クラスの数も今とは違い、入試制度等も大きく変わりましたが、国立公立大医学部医学科合格者44名(現役18名)、難関10大学合格者46名、早稲田36名、現役11名、慶應義塾22名(現役7名)といった結果でした。さらに当時の統計を見てみると、58回生(330名)の高3の1学期での志望動向として、法学59名、理学32名、医学48名と多かったです。93回生(現役高3)306名の1学期志望動向では、法学25名、理学11名、医学59名となっています。合格者数の比較よりも、むしろ医学部志向の高さと志向の変化に驚いています。

大きく変わる現中3からの入試も近づいてきており、いろいろな変化が求められています。一方で、昨年も書きましたが、昭和41年度の進学の手引に書かれている英語、現代国語の学習法が、新鮮に感じられます。Teaching Speaking, Reading, Writing の四つの能力の並行的向上をはかり、英語を生きた言語として、把握し、世界における自らの位置を知る為の視野を広げて、人間形成の最終目標を達成することを学習の根本とする(ことをまず心に銘記しよう)。「現代国語の学習も、他の教科と同じく、結局は人間形成のために行う。決して点数をとるためではなく、また、大学入試の準備のためでない。」
「国語はやらないで解く」とは笑うべき妄想である。国語学習の対象は、常識国語ではなく、教育国語であり、各学年に応じて、相当の時間をさき、相当の努力をすべきだ。」
「種痘を嘗むるなれ」
土佐の筆き上げてきた伝統の神髄に立ち返り、伝統を守りつつ大きく変化していく必要を感じています。

放送部、「白線」で最優秀賞!!

放送部顧問 入野文夫(70回生)

昨年度行われました四国コンテツ映像フェスタ2016の小中学生部門において、本校放送部制作の映像作品「白線」が最優秀賞に選ばれました。作品の内容はタイトル通り、冬服の袖口10cmの位置に巻かれているお馴染みのツアレです。

本作品は6月ごろ、別のコンテツト向けに制作を進めていたものの締切日に間に合わず、残念なことに完成を断念しました。しかし、その年の秋、総務省四国総合通信局主催の映像講習会が本校のコンピュータ室で開催され本コンテツトを知り、制作を再開し出品することを決めました。そこから締切日10月末まで短い期間でしたが、なんとか応募にこぎつけることとなりました。講習会ではたくさんの方のアイデアの出し方や作例を目の当たりにしたことで多くのことを学び完成への意欲を奮い立たせる助になりました。

二段階審査のうち、一次は二週間程度の公開審査でしたが、短期間にもかかわらず審査を知った卒業生がSNSで情報を拡散してくれたことも手伝ってより多くの方々に閲覧していただきました。その方々からの感想は、制作にかかわった生徒たちの励みにもなりました。

作品では、一度結論付けたことに疑問符をつけ、とんでん返りする手法に多くの反響をいただきました。OBOGの方

からは、作品前半で「自分たちの知っている話ではないと感じながら見ていた」、現役世代からは「誇らしげな話から、一転残念な結末」などさまざま。今回はドキユメンタリー番組のように構成しましたが、語り継がれる話だけで十分な文獻等による立証をしていませんので、エンターテイメント作品として見ていただけたらと思います。ただ、作品内で紹介されたはずれのいわれであつても、白線は常に高知の街角できらめく土佐校のシンボル在校生の誇りであることは揺るぎのない事実です。土佐に関わる全ての人に改めて冬服の袖口を見つめなおしていただくきっかけとなればと思います。

2017.2.17 付
高知新聞より



頑張る現役生のクラブ活動状況は、土佐中・高等学校HP クラブ・生徒会↓
特活通信「右文尚武の軌跡」(楠目博之特活部長・51回生)で詳しく掲載しています。



応援よろしく
お願いします。

硬式テニス部、男女共にインターハイ出場!!

男子監督 沖 宗右

この度のインターハイ出場に際しましては、たくさんの方々から心温まるご支援をいただきまして、誠にありがとうございます。

今年の県総体団体戦、31年振りに優勝しインターハイ出場を掴み取りました。インターハイでも団体1回戦で日大山形に2-1で勝利し、目標であった全国での1勝も達成できました。

1年生からエースとしてチームを引っ張ってきた中岡祐太(93回生)にとつてインターハイは手が届きそうで届かない夢の舞台であり、負けた悔しさや怪我を乗り越え、この結果を出せたことに彼の成長を感じました。もちろんこの結果は中岡がひとりで成しえたものではなく、同じ団体戦のメンバーやチームメイト、それぞれの家族など、支えてくれたたくさんの方々がいたからこそです。だからこそ、今年のこの結果には価値があるのだと思います。

インターハイの団体メンバーは3年生が3人、1年生が2人でした。主力であった3年生は抜けましたが、インターハイを経験した1年生は残っています。現在は、新チームで春の全国選抜出場、そして、県総体2連覇を目指し練習しています。

またこれからも

女子監督 秦 綾花

はじめに、8年ぶりのインターハイ出場にあたり皆様より多大なるご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。おかげさまで、遠い福島の地に、応援も含め部員全員で臨むことができました。また、会場に足を運んでくださった皆様の声援や拍手一つ一つは、部員たちの大きな支えになりました。

戦績は、個人戦、団体戦ともに初戦敗退と残念な結果になりましたが、念願のインターハイの舞台で戦う経験値をあげることができ、インターハイ特有の緊迫感や全国大会常連選手の凄さを全身で感じ、そこに行けたからこそ気付いた事が山ほどありました。今後につながるより一層の刺激を受けたことは、私たちにとつて予想以上の収穫となりました。そして今は、県総体で優勝した直後以上に、優勝の重みと価値がはつきりと分かります。来年の夏、再びあの舞台に立てるよう、部員一同

手を取り合つて精進する覚悟です。

新チームになり未熟な部分も多いですが、今後もしっかり指導・鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。



2017 ホームカミングデー

日時／平成29年8月12日(土) 12:00～

講演会

筆山ホール講演会 読みのスリルとサスペンス ～名作の行間に隠されたもの～

土佐中・高等学校国語教師 広井 護 氏 (48回生)



高知新聞に「『亀馬がゆく』のスリルとサスペンス」を連載中の広井先生の講演には、筆山ホールに入りきらないほどの同窓生が詰めかけ、会場は熱気に包まれました。「表層の読み」「深層の読み」という二段階で文学作品を読み解く面白さを全員が体感しました。

特別授業

恩師に捧げるライブドローイング 「お世話になったあの先生が、 全身似顔絵になっていく」

漫画家 正木 秀尚 氏 (57回生)



北村真実さん(57回生)の演奏によって描き出される恩師は今にもキャンパスから飛び出して踊りだしそう♪さてその恩師とは？

古文の深層読みに挑戦

…「徒然草」への誘い…

土佐中・高等学校教諭
正木 宏明 先生 (52回生)



いろいろと準備していったのに、予想をはるかに超える発言が続出してタジタジでした(正木宏明先生談)。ほんと土佐校生はユニーク！

体力測定 ～あの時君は若かった～



確かに若かった…あの頃は（汗）

Road to 母校 3rd

～母校はライダーを待っている！～



～表彰～

- ①参加人数 16名
- ②表彰 ヴィンテージ賞 富永邦昭 (46回) 1987年式
 プラニュー賞 林 治希 (83回) 2017年式
 遠来賞 山本峰雄 (62回) 東京都より
 最年長賞 高橋正昭 (37回)
 紅一点賞 杉原由紀 (62回) 旧姓谷脇
- ③遠来から 東京都 山本峰雄 (62回)
 京都府 高橋正昭 (37回)
- ④最年少 西村太希・鎌倉礼学 (88回)



今年で3回目。16名のライダーが集結、女性初参加で大いに盛り上がりました。

サイエンス・マジックショー

「子どもも大人も必見!! タネも仕掛けもあります!？」

高知市民図書館新図書館建設室
(高知みらい科学館担当)
岡田 直樹 氏 (77回生)



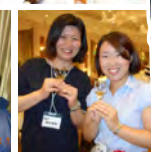
大人も子どもも大喜び！未来の土佐中生が科学の不思議に夢中になった50分間。たくさんの子もたちの歓声が会場から溢れてきました。

土佐校体操



武内 亮太 先生 (81回生)

恒例となった懇親会での土佐校体操。今年の音頭をとって下さったのは、武内亮太先生(81回生)、若きホープです。先生のかげ声「イチ、ニ、サン、シ!」に続き、壇上の「7の会」最若手87回生と会場の全員が「二、二、サン、シ!」と呼応。一気に酔いが回りました(笑)



「7の会」蔵元のお酒飲み比べコーナーを企画して

中谷 貴美子 (67回生)



土佐高校を卒業して早や25年、同級生を見渡してみると、皆各分野で活躍しています。そんな中、ここ数年で、67回生の3人が相次いで実家の酒蔵を継いだという嬉しい知らせも入ってきました。

今回、谷相実行委員長から、ホームカミングデーで行う企画を、と言われた際、この3人のことが思い浮かび、何かできないかなと考えたのが今回の企画のきっかけとなりました。現在の日本の、高知のお酒業界のお話をしてもらうミニ講演会や、酎酒大会などの案がありましたが、最終的に懇親会での飲み比べコーナーという企画となり、今回は「7の会」実行委員にちなんで、蔵元も「7」のつく回生に限定し、57回生実行委員の高木直之さんを含めた4社(高木酒造、酔鯨酒造、菊水酒造、西岡酒店)にご協力頂くこととなりました。

懇親会の中盤、67回生代表幹事宮地宏明くんの司会のもと、各蔵元から一言ずつ頂き、飲み比べコーナースタートとなりました。実際に開催されるまでは、わざわざ壇上までお酒を取りに来てくれるのだろうか、お酒が大量に余ってしまわないだろうか、などと心配しておりましたが、全くの杞憂でした。(フライングで勝手に、しかも3つもグラスを取って行ってしまっ先輩もいらっしやるぐらい。)次々と皆さん壇上へ上がってグラスを受け取り、また蔵元さんとお話したりと大盛況。少しまばらになったかな、と思ったら、今度は若い方々が連れだって上がって行ってくれたりと、蔵元

さんに用意して頂いたお酒は全て、皆さんに飲んでいただくことができました。

今回、このような企画は初めてだったようですが、会場の新阪急ホテルさん、看板作成の藤本デザイン(57回生)さん、高知酒造組合さんのご協力を得て、皆さんに喜んでいただけるコーナーを作ることができました。そして、何より、快くお酒を提供していただいた57回生高木直之さん、67回生竹内孝久くん、春田和城くん、西岡大介くん、本当に有難うございました。また、お忙しい中、ほとんどの方が懇親会に出席していただき、コーナーを盛り上げてくれました。心よりお礼申し上げます。同窓生の蔵元を知って頂けるいい機会になりましたし、実際に味わっていただくことで、多くのファンが新しくできたのではないかと考えております。そして最後に、各蔵元との橋渡しになってくれた67回生実行委員のみなさんにもお礼を申し上げます。有難うございました。



あらためて我が母校の素晴らしさを痛感

「7の会」実行委員長 谷相 良一(47回生)



あれは、昨年初冬の頃だっただろうか？

北村恵美子さんと、年明けの学年同窓会の打ち合わせをしていたところ、来年のホームカミングデーの担当は、7の付く回生だとのこと。当方も「あ、そう」という程度に聞いていたところ、「実行委員長をやってくれん？」と言葉。寝耳に水のごとで、「私よりずっと適任の方がいるでしょう」と申すと、「こういう役は、谷相君の方がいいの」。どういう根拠で言われたかは不明ですが、日頃なにかと世話になっている彼女の頼みだったので、役不相応な私でしたが、承諾いたしました。

第1回目の実行委員会を2月27日に行い、その時の決定事項は、各回生(47、57、67、77、87)それぞれ何か1つイベントを考えよう、ということ。その後4月、6月、8月と回をかさね、各回生の最終案が決定。

第1回目の実行委員会からの約半年間、土佐校同窓生のすばらしい団結力を見た気がしました。ホームカミングデー当日も各担当学年による滞りない運営のもと、クライマックス夜の“大懇親会”へと進むわけですが、57回生・67回生の各蔵元による“自慢の地酒飲みくらべ”などが催され、先生、先輩、後輩、同級と酒を酌み交わし本当に楽しい1日でした。

ホームカミングデーには、47回生独自のイベントを企画した10年前に1度参加しただけで、今回2回目ということになったわけですが、改めて我が母校のすばらしさを感じることができました。

土佐校ありがとう。～冠する土佐の名に叶へ～

来年のホームカミングデー 2018年8月18日(土)開催予定

在りし日の恩師を偲ぶ

中澤節子先生に感謝をこめて

森木 房恵(39回生)



2005 ホームカミングデー特別授業にて

♪ Listen to me! ♪
授業中、騒ぐ男子の耳を吊り上げて先生の声が響き、12歳の私は「カッコいいー!」と内心大拍手でした。
憧憬・畏敬・清冽・明朗・霸気・不屈・土佐中高に足掛け50年、中澤

先生は凛としてそれぞれの時代の生徒たちを導き、教え子を国の内外各界に翔かせてくれました。

出会は60年前、土佐中に入学した私の1年B組の担任が中澤節子先生でした。当時まだ30代の先生は、土佐の教壇に立つて6年、美しく自信に満ち溢れていました。これは私にとって人生初の邂逅と言える大きな出来事でした。ABCも知らず、小学校でローマ字が嫌いだっただけの私が、今英語で世界を駆け巡る起点となったのです。

先生はまず熱血教師でした。圧倒的多数の男子で埋まった古い教室の中で、全身を駆使して発音を指導し、歯切れよく授業を進める声はキラキラ輝いていました。私たちはいつの間にかあんな先生になりたいと思いはじめました。

先生は勿論心の深い教育者でもありませんでした。放課後の掃除は毎日率先垂範して生徒と共にあり、その姿に敬意を覚えたものです。実はこれも先生の教育指導の二環、



修学旅行の船上にて
(写真提供：森木光司氏・32回生)

初めての通知表に「掃除よく頑張りました。」と書かれていて、母が「よう見てくださいねえ」と笑ったことでした。

ある冬、先生が生活指導係のときのことです。潮江橋を自転車でするのが寒くて、私は上着の下に「こっそりベストを着ていました。廊下ですれ違った先生に目ざとく見つけられて職員室に呼ばれました。おずおずと職員室に入っていくと、中はストーブが燃えて暖かでした。休み時間の間中待たされた挙句、やっと先生が来て「違反は違反」とひと言、それだけでした。私は温まって職員室を出ました。先生は私を温めるために呼んでくれた?!

そして、先生はなにより自立志向の人でした。医師であったご主人を戦争で亡くし、幼い子供たちを抱えて教壇に立つことになったと噂に聞いたの

はずつと後になつてからのことです。先生は土佐を辞しても尚教育に情熱を持ち、85歳まで教壇に立ち続けました。
♪人生何があろうと前向きに生きること♪その美しいロールモデルは、これからも心の中で生き続ける永遠の生き様の先生です。先生の教えを胸に飛び続けています。心からの感謝とともに「冥福を祈ります。」

(ユナイテッド航空客室乗務員)



昭和26年赴任の年・中1クラス写真(写真提供：森木光司氏・32回生)

高崎元尚先生、ありがとうございます

中津 徹(39回生)

2017年6月17日〜7月23日、高知県立美術館にて高崎元尚新作品展、「破壊COLLAPSE」が開催されました。その会期中、6月22日に先生はお亡くなりになりました。94歳の大往生でした。ご冥福をお祈りいたします。

「現代美術葬TREREシリーズ」
かつて我々が土佐高の学生時代、木造の旧校舎の玄関前にまっすぐ空にそびえるメタセコイヤの太木があった。その頃の土佐高のシンボリックな木であった。その木が枯れたとき、先生はその太木をテーマに高崎元尚先生の世



写真家・河上展儀氏撮影



筆者写真提供

は相当なものがあったと思われれます。高知公園にその太木の切り株を並べたシンフルな立体パフォーマンス作品は、写真として残り、先生の傑作のひとつであります。

昔の木造校舎で育った私にとりましても、この写真作品を観るたびに目頭が熱くなります。この「現代美術葬TRERE」の個展は、京都「ギャラリー16」でも数回行われておりました。生あるもの、いつかは死がおとずれる。それがアートとして息を吹き返し、永遠に生き残る。

時間差はありますが、このメタセコイヤの太木は高崎先生ご自身であり、自分自身の「現代美術葬」であったように思えてなりません。

「誰もやらないことをやる」
2016年香美市立美術館にて、高崎元尚展を開催した時のキーワードが、「誰もやらないことをやる」でした。この言葉は、先生が常に新しい発見を探し求めるオリジナル現代美術への挑戦であり、先生ご自身の生き方そのものであると思います。

私が学生の頃は、先生は「朱と緑」という平面作品シリーズに取り組んでおられました。県展の特選に何度か選ばれ、自信に満ちた時代の旗手でした。その後、先生なりの突然変異的な進化をし「破壊COLLAPSE」、そして「装置」へと誰もやらないことへの挑戦をしてきました。キャンパスの枠にとられない立体作品、そしてパフォーマンスへ

の自由な画域への広がりでした。

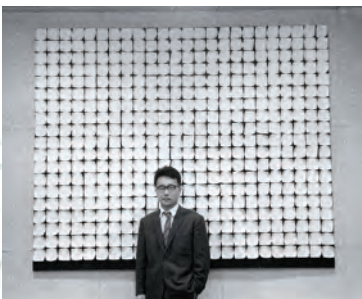
先生の作品は、すべて「SIMPLICITY単純さ」を追求し、無駄を極限まで削ぎ落す幾何学的な美しさは、観る者に個々の想像をめぐらし、おしやれで気品のある感情を呼び起こす画力があります。

「アメリカが僕を呼びにくる」
先生は関西の現代美術集団の具体美術協会の会員になられ、1966年具体の仲間と一緒にニューヨークに招待されました。

その時の作品が「装置」で、その後はこの「装置」の展開で余生を主に制作活動されました。

お歳をとられても、英会話・英字新聞等の英語の勉強をされ、「アメリカがもう一度僕を呼びにくる」と口癖のように自分自身を鼓舞し、生きて来られました。

2013年、先生が90歳の時、具体が再評価され、ニューヨークグッゲンハイム美術館に展示招待されました。最後に願いが叶い、現代美術ひとすじに生きた幸せな人生を送られたと思います。ご冥福をお祈りします。高崎先生、ありがとうございます。



(上) 1960年代後半撮影 (下) 2013年撮影 (写真提供：高崎元宏氏・51回生)



支部だより

関東支部

常任幹事 西森さと (57回生)

同窓会のご縁は良縁

平成元年に青山二丁目に私とあなたと仲を取り持つ「ギフト」と言う思いを込めて「ギフトショップ トウインズ」を開店致しました。その報告を当時の松浦校長にさせて頂いたと、「そうやって頑張つていられるなら、土佐校の同窓会に入つた方がよい」とアドバイスを頂きました。これが私が、関東支部同窓会と関わるようになったきっかけでした。

その後、同窓会のお手伝いをさせて頂いている中で、各年度で持ち回りの総会運営が始まる1997年が「アの会」であったため、自動的に「総会担当の代表」として、第二回目に関わり、その後「総会世話役」と言う肩書きまで頂いて、何と20年！総会の準備会に関わって参りました。

そして迎えた、今年は3巡目。今回は、総会に初めて参加するという、77回生の森岡碧さんを中心に準備しました。実は準備会の始まった2月の下旬に、ビル改装に伴い、29年営業してきた「ギフトショップ トウインズ」を閉店せざるを得ない状況に陥り、私自身は、どうしようかと途方にふれてのスタートでした。

そんな時、仕事でお付き合いのある方から、「さとさん、高知のことをすれば!?」と言われたのがきっかけで、高知の本物の物作りをされてる人を掘り起こし始めましたら、何となくとそんな人がいらつしやるではないですか!? そんな高知の良さを、東京でのチャンネルを使

い、世界に発信していくような事業が出来れば」とさとさんとプロジェクト」を発足しました。いみじくも、総会の準備と平行して私にとっては、50才過ぎて初めて、高知と密に関わる時間となりました。

九月には高知市内で、高知の食材を使って、西麻布の料理屋のおかみさんの「とさととお料理教室」を開催。皆様から好評を得られましたのも、豊富な土佐校の人脈初め、これまでの良縁の連鎖があつてのことでした。

全ては人のご縁の成せる技。

人とのご縁を大切に、幸せのお手伝いが出来ればと、自分の仕事も、土佐校関東支部のお手伝いもして参りましたが、ここに至つて、2つが一緒になつての事業展開になるうとしております。ジョン万スピリットの「人生の最大の不運を、最高の幸運に置き換えて行く生き方」は新たな座右の銘。

私のライフワークとなりつつある総会の準備会は大先輩や後輩たちと自由に意見交換しながら、ひとつの目標に向かつて交流できる、とても土佐校らしい場です。母校のご縁の連鎖の素晴らしさを後輩たちに伝えて行くのも私の役目と、あの時の松浦校長に改めて感謝する思いです。



東海支部

事務局長 瀬沼憲司 (64回生)

同窓生の皆様、こんにちは。

東海支部では、例年通り5月に総会を執り行いました。今回総会で講演いただいたのは38回生の川上雄資さん(北陸先端科学技術大学院大学名誉教授)でした。

子育てから人材の育成など幅広く興味深いお話しをしていただきました。改めて土佐校の卒業生が様々な分野で活躍していることを実感し、誇りに感じます。来年の講演も楽しみにしていています。最近の東海支部では、少しずつ若手の参加が増えていますので、さらに若手を増やし、若手の力で盛り上げていきたいと思っています。

さて、東海地方の今年のスポーツ界はなかなか厳しい結果になっています。プロ野球では中日ドラゴンズは5位。昨年の最下位からは何とか一歩ステップアップというところ。

そして、Jリーグでは昨年J2リーグに降格してしまった名古屋グランパス。今年も体制も、戦術も大きく変えて戦つております。パスサッカーを主とする攻撃型の見えていて楽しいサッカーを目指しながらつておりますが、戦い方を大きく変えたこともあり順調とはなかなか言えない戦いが続いています。四国のJ2のチームとも対戦し徳島ヴォルティスには1敗1分け、愛媛FCには2勝、カマタマーレ讃岐には、最終戦を残して1勝となつており、順位は9月25日の時点で5位と昇

格プレーオフ圏内には何とか踏ん張っていますが、「進退の厳しい戦いを続けています。最後までしっかりと応援していきたいと思ひます。

カマタマーレ讃岐との最終節が行われる11月19日は香川まで応援に行きたいところですが、東海支部の冬の懇親会がまさにその日に予定されています。同窓生の皆さんと楽しく酌み交わしながら、グランパスの結果を待ちたいと思ひます。



関西支部

船木みあさ (65回生)

忘れてる、とは言わないまでも、普段はさほど気にしていない。なのに自身がひしゃげた時に、私の心にもふと浮かぶのが、土佐という学校。

〜土佐ってなんなんだろうなあ〜私にとって。

在学中は、そこはかとないもどかしさを感じるものの、どうして良いか分からず、淡々と流れていく時に身を委ね、卒業の日を待っていた。

土佐が母校になって15年という歳月が経つた頃、そこで過ごした日々が私の基となっていることを意識し始めた。自力では越えられないと思われよう壁にぶち

当たるたびに、「土佐合格」の瞬間を想起した。それは、誰もが評価してくれ、かつ、初めて自らの力で手にした自身の実績として、揺るぎない地位を、私の心の中で占めていた。もちろん、現在に至るまでに、なんらかの評価を得ることはあった。しかし、土佐という門をくぐった経験があったからこそ、の話だと思う。

教室で習ったことが良かった。なんて言うつもりはない。白線をつけた経験のある同袍の誰かが活躍しているという情報を「向陽」や「なんぶう」(関西支部の会報)を通じて知り、刺激を受け、かつ、私もちつて同じ学校に所属したメンバーの一員として分け隔てない扱いを受けていることに、母校の大きさを感ずっていた。

高知を離れた卒業生が声をかけあつて、ぼつりぼつりと支部が出来た。何でもないようだけれど、こういう組織があるということ自体、「あの敷地に通つて育まれたもの」、強さを感じてしまう。そういった支部の活動の一つとして総会を開く。出席して思うことは、「土佐でどういう生徒であったか、現在どうであるかに関わりなく、迎え入れられる。」ということ。

関西支部では、平成30年4月14日(土)15時30分から、KKRホテル大阪(JR森ノ宮駅より徒歩10分)にて平成30年度の総会を開催することに。大阪城が一望できる宴会場で、皆さん、お会いしましょう！



筆者(左)と入交一夫(53回生)先生(関西支部総会にて)

広島支部

幹事 妹尾加代(35回生)

初めて広島支部の同窓会に参加したのは22年前になる。ゲストとして籠尾良雄監督をお迎えしていた。会場に着くなり、若い後輩から、「籠尾先生に花束を渡してください」と言われた。「どうして私が？」と聞くと、「女性で最年長です」とざざり言われた。今でも最年長だ。

二十数年来、ほぼ毎年参加したのは、お世話人諸氏のご尽力のおかげで、素晴らしい先輩後輩たちにお会いでき、色々刺激的なお話しを伺う楽しみがあること、母校への感謝の気持ちである。

土佐高で人生の夢をもちつた。夢に火をつけられた。ちつとも勉強しなかつたが、段々と、勉強する面白さを教えてもらった。古谷俊夫先生のシルクロード、万里の長城の話に、政岡先生の漢文に胸をときめかした。

そして友達。彼ら、彼女らといると、青春18歳。皆それぞれ燃ゆる思いを抱いて生きている。今したいことに夢中である。

広島支部設立には、20回生の先輩竹村照雄先生の「尽力をいただいた」と伺っている。広島高検の検事長で退官された後は、東京で弁護士としてお仕事をなさっていたが、同窓会には毎年広島までお出かけ下さった。そのご著書「検察官の軌跡」の中で、ある弁護士が「これほど被疑者あるいは被告人のことを考えてくれる検察官が今の検察に一体どれだけの数だろうか」ということである。また「本書を一貫して流れる、人を見るあたりの先

生の眼差し」と書いておられる。先生の姿勢は今でも忘れることが出来ない。

以前たまたま、富士重工業の新社長紹介の記事を見た。その中に「私が社長になったのは、声が大きいのと背が高いためだ」と家内が言った」と言うようなことが書かれていた。こんな大らかな方が社長になるとは、富士重工業はいい会社だろうと記憶に残つた。平成25年の同窓会にゲストとして富士重工業社長長森郁夫氏が現われた。なんと41回の卒業生であつた。母校への感謝を「支部だより」に換えさせていた



香川支部

幹事 森下 博(48回生)

同窓会の皆様、こんにちは。香川支部幹事の森下です。

今年の第22回香川支部総会は、7月1日に例年通りJR高松駅前の高松シンボルタワーで開催されました。ご来賓として、今年度から新たに就任された小村学校長、同窓会本部から西山幹事長、千頭会計幹事、さらに各支部からは、黄川副幹事長(関東)、前田支部長(東海)、山崎幹事(関西)、藤川幹事(広島)、加えて高知若手会の北川様をお迎えし、瀬戸内海に浮かぶ島々と屋島の景色を眺めなが

ら、楽しいひと時を過ごすことができました。特に今年は、新校長にご出席いただけることから、会員出席者が45名と例年よりもかなり多く、盛大なものとなりました。

この日は、気温34度の猛暑でありましたので、総会後の懇親会では、冷たいビールや土佐の地酒で杯を酌み交わしながら、中高時代の昔話や近況報告等で大いに盛り上がりました。最後は、恒例の肩を組んでの校歌斉唱、大黒支部長による応援エールでお開きとなりました。



さて、香川県と言えば瀬戸内海気候で雨が少なくと習ったことと思います。高知に住んでいると、いやというほど雨が降るのか、水不足を気にすることはなく、高知県にある早明浦ダムの貯水量など普段気にしないと思います。一方、高松に住んでいると、早明浦ダムが香川の水がめであるため、貯水率はみなさん気になります。毎日の新聞・テレビニュースで報道します。今年度は少雨の年にあつたのか、総会の日には貯水量が60%を下回り、大丈夫かと案じたところ、その後の台風で回復、また減少、回復を繰り返しています。香川県には、ため池が大小あわせて1万4千あると言われ、1区に約8のため池があることになり密度は全国一位だそうです。琴平の金比羅さんの近傍には、空海も改修を指揮したといわれる、日本最大の「満濃の池」があります。うどんツアアの途中にでも立ち寄り寄られてはいかがでしょう。

北海道支部

事務局長 山本隆昭(53回生)

事務局の山本です。

昨年は台風の影響で、北海道のジャガイモが不作となり、全国的にポテトチップスが品薄となつてしまいました。オホーツク地方の農家の人によると、今年もジャガイモが土の中で緑色になつてできが良くない地域があるそうです。通常ジャガイモは土から出て日光に当たると緑になり商品価値が下がります。土の中にかかわらず同じように商品価値が落ちていくようです。今年もポテトチップスが品薄にならないか少し心配しています。また、昨年の台風では十勝地方の多くの河川が増水し氾濫しました。今も上空から見ると、未だに多くの河川で堤防内の河畔林が消失しており、昨年の台風の影響が強く残っています。元の状態に戻るのにはまだまだ時間がかかりそうです。

それでは北海道支部の活動についてお知らせいたします。北海道支部の主な活動は例年秋に開催している支部総会ですが2016年度は10月22日にロイトン札幌で開催しました。来賓として、学校より武市生徒部長(現教頭)、同窓会本部より岡内会長、関東支部より山崎様にご出席いただき、北海道支部の10名(この内4名が学生でした)と合わせて13名での開催



となりました。この総会では平成29年度、30年度の役員改選を行いました。支部長、幹事長、事務局長には変更はありませんでしたが、今までの幹事に加え谷博文さん(62回生)が幹事に選出されました。これでも役員会も少し若返りましたが、北海道支部も役員の若返りが今後の課題になると思います。また、総会、懇親会以外の事業も何か行いたいと思っています。

最後になりますが、今後も北海道支部を宜しくお願い致します。機会がありましたら北海道支部総会にもご出席ください。心よりお待ちしております。また、転勤、進学などで北海道にいらつしやる方がおりましたら、是非北海道支部まで連絡して下さい。本部を通してでもかまいませんので宜しくお願い致します。

徳島支部

支部長 吉岡一夫(50回生)

7番目の支部、徳島をよろしく!

このたびは、土佐中・土佐高徳島県校友会を支部に認めていただき、本当にありがとうございます。

2年前に植田滋顧問(52回生)が発起人として校友会を数回開き、支部にしたいだきたいという機運が高まり、このたび申請させていただきましたところ快諾を賜り感謝しております。

平成29年9月16日に第1回土佐中・土佐高同窓会徳島支部総会を開催いたしました。小村校長先生、西山幹事長、千頭会計様には台風の差し迫るなか、「高知らしいやいか。」と笑顔で出席を賜り、重ねてお礼申

し上げます。

小村校長先生のお話の中で、あの永遠のライバルである学芸高校でさえ高校編入試験の定員割れを懸念している状況をお聞きしたことは衝撃でしたし、改めて支部の役割を考えた次第です。総会後、懇親会では「櫓クラフティ」の27回生から80回生の櫓の写真スクリーンに投影しながら思い出話を語っていただきました。

「この櫓をみても、全く思い出さない」という人や、「徹夜した」とか「こすり酒飲んだ。」人や、「櫓の上からハトを飛ばすために高知城から拉致してきた数日、教室で飼っていた」と言う人まで飛び出しました。また「それまで全く目立っていませんでした。櫓づくりで特別の才能を発揮して、躍クラスのヒーローになった人がいた。」というお話は印象的でした。80回生以降の方もたくさんいらつしやる、小村校長先生から、「80回生以降の櫓クラフティを作ることが、我々の使命です。」とおっしゃっていただきました。

「わが道をゆく」という個性豊かな土佐高校の生徒が「櫓」という、知力も体力も必要とする共同作業を通じて97年の歴史をもつていても消えることの無い思い出として残っていました。

個人主義が叫ばれている昨今、時代に逆行して立ち上げた7番目の弟、土佐中・土佐高同窓会徳島支部を今後とも宜しくお願い申し上げます。

徳島の地においても「冠する土佐の名に」叶う様に頑張ります。



支部設立、初の総会

編集後記 向陽発行にご協力いただいた皆様ありがとうございました。ホームカミングデー懇親会での土佐酒の試飲会では、用意したお酒があつという間になくなる人気。高知の酒蔵には土佐の卒業生が沢山いらつしやるんですね。また次回に期待です。(60回生 島崎留端)

母校／同窓会本部／各支部	土佐中学・高等学校 事務 千頭裕 〒780-8014 高知市塩屋崎町1-1-10 (TEL) 088-833-4394 (FAX) 088-833-7373 (E-mail) tosa@tosa.ed.jp (HP) http://www.tosa.ed.jp/index.html
	土佐中学・高等学校同窓会本部 会計幹事 千頭裕 〒780-8014 高知市塩屋崎町1-1-10 (TEL) 088-833-4394 (FAX) 088-833-7373 (E-mail) tosa@tosa.ed.jp (HP) http://www.tosaobog.com/
	同窓会北海道支部 事務局長 山本隆昭 〒001-0018 札幌市北区北18条西6丁目 ARTE 88-305 (TEL) 011-756-2817 (FAX) 011-756-2817 (E-mail) yamat@den.hokudai.ac.jp
	同窓会関東支部 事務局長 二宮潔 〒100-8222 東京都千代田区丸の内2-6-1 丸の内パークビルディング森・濱田松本法律事務所 弁護士市川直介 気付 (TEL) 03-5223-7719 (FAX) 03-5223-7619 (E-mail) naosuke.ichikawa@mhmjapan.com (HP) http://www.tosako-kanto.org/ (E-mail) kininomiya@ykh.chiyoda.co.jp / ninomiya@iris.ocn.ne.jp
	同窓会東海支部 事務局長 瀬沼憲司 〒455-0064 名古屋港区本宮町6-7-5 フォレスト本宮201 (TEL) 052-837-5834 (FAX) ナシ (E-mail) knzss@kza.biglobe.ne.jp (HP) http://tosakotokai.web.infoseek.co.jp/
	同窓会関西支部 事務局長 藤原由規 〒564-0063 大阪府吹田市江坂町1-17-14 江坂吉川ビル5F 税理士法人アクセス 気付 (TEL) 080-9166-2400 (FAX) 06-6110-5419 (E-mail) y-fujiwara@act-cess.jp
	同窓会広島支部 事務局長 大谷準一 〒734-0007 広島県広島市南区皆実町6-3-26-902 (TEL) 082-253-5759 (FAX) 082-254-7523 (E-mail) spat56z9@vesta.ocn.ne.jp (HP) http://www.geocities.jp/hiroshimashibu/
	同窓会香川支部 事務局長 野村喜久(担当=福原俊介) 〒760-8573 高松市丸の内2番5号 四国電力(株) (TEL) 090-7780-3722 (FAX) ナシ (E-mail) fukuhara.14443@yonden.co.jp
	同窓会徳島支部 事務局長 菊池 義倫(担当=藤坂徹) 〒770-0841 徳島市八百屋町3丁目10-2 四国銀行徳島営業部 (TEL) 088-622-4141 (FAX) 088-623-6676 (E-mail) tourun0617@gmail.com